



# ツユクサ (露草、月草)



ツユクサ科 ツユクサ属 *Commelina communis*、単子葉の1年性植物。4月から9月に咲く。温帯の、特に水辺などにみられる。どこにでも生えており、それで *communis*、英語なら *common* だろう。径10-13mmほどの大きさの花弁2枚はマメ科の花のように左右相称に見える。より小さな白い3枚目は目立たず、下側にある。学名はかの博物学者リンネによるもので、3名の同時代のオランダの植物学者の中で、一番

目立たなかったJ. G. Commelinに因んで名付けたという。冗談のような話で、本当かどうか。青紫色の花弁は美しく、よく見るとたくさんの小さな粒が陽の光を受けて煌めく。実体は不明であるが、植物によっては花弁に澱粉粒があって反射するものがあるという。ツユクサはシュウ酸を含むというので、シュウ酸カルシウムの結晶かもしれない。6本の雄蕊は風変わりな形態であり、完全な長い2本だけが花柱と共に突出する。残りの短い4本の仮雄蕊のうち、1本は少し長く、葯の形も違う。花は早朝咲いて9時頃にはしおれ、二枚貝のような苞葉に隠れてしまう。万葉の時代には月草と書いたらしく、因む歌9首が残されているという。花が開いている時間が短い故か、つかの間に終わった恋の歌が多いらしい。昔からアントシアニン系の紫の色素を採取して紙や衣類を染めていた。属を異にするムラサキツユクサは北米原産の

学校法人中部大学

監事

太田明德



外来植物で、花の形はだいぶ違う。3枚の同じ形の赤紫色の花弁を持つ。生物学の教材として使われ、ムラサキツユクサの若い葯では、減数分裂期の染色体や分離異常を容易に観察できるとして、教科書に図版が掲載されている。懐かしいことにそれは今でも変わらない。生物の先生はムラサキツユクサを栽培しないとイケないが、我が中部大学の付属高校でも栽培しているのだろうか。

さて、駄句を二つ。

誰が知るや露草の花の煌めきを  
朝露の置ける間もなし苞閉じる

参考)

- ・「花と樹の大事典」木村陽二郎監修、p292、柏書房1996
- ・「図説 草本辞苑」木村陽二郎監修、p258、柏書房1988
- ・「日本の野生植物」Ⅱ草本、佐竹義輔ら編著、平凡社
- ・ウィキペディア、「ツユクサ」、「ムラサキツユクサ」
- ・「改訂 生物」、浅島誠他著、東京書籍2023